

令和3年度 「全国学力・学習状況調査」について

令和3年度全国学力・学習状況調査が5月に3年生を対象に実施されました。その調査結果から今後、学校が努力すべき点や生徒との関わりを検討し、まとめましたので、お知らせいたします。

教科の概要について

○国語、数学ともに全国平均よりも下回る結果となっています。

国語については、学習指導要領の領域等で「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の項目が低い数値を示しています。その中であって、「書くこと」の項目は千葉県平均を上まっています。このことから、読解力の強化が課題となっていることがわかります。

数学については、学習指導要領の領域で「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域全てが低い数値を示しています。問題形式においては、「記述式」が特に低くなっています。機械的に答える問題には取り組む姿勢が見られていますが、答えに至るまでの過程などを記述することが課題となっています。

これら国語と数学の結果を、次年度の指導に活かしてまいります。

生活アンケートから

○「規範意識について」

上記の質問項目で「人が困っているときは、進んで助けていますか」では90.9%の生徒が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では96.8%の生徒が、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では95.1%の生徒が、肯定的に答えています。このような規範意識が、御滝中学校の生徒が落ち着いた学校生活を送っている大きな要因だと考えられます。また、いじめに対してきちんとした考えと正義感を持っています。生徒会の取り組みや道徳の授業などあらゆる機会にいじめに関する題材を取り入れ、いじめ防止に積極的に取り組んでまいります。

○「生活習慣について」

上記の質問項目で「朝食を毎日食べていますか」では91.3%の生徒が、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では89.5%の生徒が、肯定的に答えています。しかし、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目では肯定的な生徒が10ポイント程低くなっています。規則正しい生活習慣の習慣ができるように学校と家庭で協力し合いながら努力していきたいと思えます。

○「学習習慣について」

上記の質問項目で「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」では肯定的な生徒が59.8%でした。学習事項の基礎基本を定着させるには家庭学習の取り組みが大切です。生徒の学力向上に繋げるためにも、家庭学習の習慣化が図れるように学校と家庭で協力し合いながら努力していきたいと思えます。

今回の全国的な調査を通して、子どもと家庭、地域と学校などお互いのつながりが重要だと言われています。今後も学校・家庭・地域が互いに協力、連携し合いながら一人ひとりの子どもを大切に育てていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。